

企業紹介

積み重ねてきた実績を 信頼への架け橋に

KS 株式会社 架設工事佐々木組
KS CORPORATION

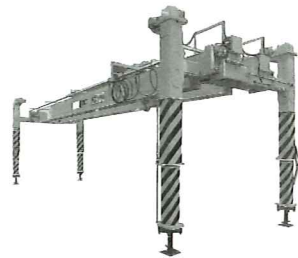
代表取締役 佐々木 長門
〒959-2117 阿賀野市下黒瀬1827
TEL(0250)67-2228 FAX(0250)67-2188
<http://www.k-sasakigumi.jp>

業 種：建設
資 本 金：2,100万円
事業内容：架設工事、特殊工事、構造物工事、メンテ
ナンス工事

高い技術力を背景に、JRをはじめ、多くの公共工事を手掛ける(株)架設工事佐々木組。中越地震の際には、余震が続くなか、上越新幹線の復旧工事にも尽力。多様なニーズにフレキシブルに対応できるよう、社長自ら工法やクレーンなども開発しており、常に新しい技術の研究・開発、修得に努めている。一方で、「工事はこわいもの」と常に危機感を持ち、徹底して安全への努力も怠らない。

技術の向上に努め、新たな工法やクレーンも開発

同社の創業は1968年。「最初は見よう見まねだった」と当時を振り返る同社の佐々木社長。創業したばかりの頃は、「技術も不足しており、信頼できる仲間を作って協力しあってきた」なかで、自社の技術を磨いてきた。絶えず、新しい技術の研究・開発、修得に努め、社長自ら日本で初めての工法を考案したほか、上下左右が伸び縮みすることで、狭い橋の上やトンネル内の工事が迅速に進められるクレーンも開発。独自の技術を有し、迅速で確実な工事を行うことで、地域の信頼を得ていった。



▲佐々木社長が考案した
テルハククレーン「のびのび」

高い技術力を背景にJRなど数多くの工事を手掛ける

現在同社で手掛ける工事は、橋梁工事や架設工事、土木工事など幅広い。なかでも、近年力を入れているのが、高度な技術を要する特殊工事といわれる分野で、JRや電力関係の工事を多く手掛けている。中越地震の際には、余震が続くなか、上越新幹線の復旧工事に尽力したほか、中越沖地震や羽越線の脱線事故の際にも迅速な復旧を目指して活躍。また、新潟県で初めての沈埋トンネルで、長い年月をかけ、平成17年に全線開通した「新潟みなとトンネル」の工事も参加して、同社の技術を活かした。社内には、これらの工事を通じて送られた感謝状が、数多く飾られている。



▲平成17年に全線開通した「新潟みなとトンネル」工事

常に危機感を持って、信頼されるよう、安全に工事を進める

佐々木社長は、「社員」を非常に大事にし、「子どもも部下も一緒」と考える。そして、社員教育にも力を入れており、本社3階を全て会議や研修スペースにあてているほか、実習ができる特別講習教育センターも保有。技術や安全などの研修はもちろん、接遇マナーや財務などについても、社長や社員が交代で講師を務め、学ばせる。また、「工事はこわいもの」と、常に危機感を持って臨む。「危機感がなくなったらダメ。そのうえで、その危機感を乗り越えなければならない。そして、安全に工事を進め、信頼されることが大事」と佐々木社長。



▲同社佐々木社長

仕事を終え、疲れて戻ってきた男性社員を迎えるのは、女性社員手作りの暖かい「お鍋」。多いときは、150人分にもものぼる。「それが、次への活力につながっていくのかもしれない」と、優しい表情で佐々木社長は話した。